

令和3年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 令和3年4月27日（火） 17：30～18：30
- 2 場 所 えにあす（2階 会議室8）
- 3 出席者 （市長）原田 裕、（教育長）岩渕 隆、
（教育長職務代理者）土谷 秀樹、（教育委員）福屋 栄人、
（教育委員）白崎 亜紀子、（オブザーバー）副市長 横道 義孝
事務局
（総務部長） 広中 敦、（教育部長） 竹内 春実
（総務部次長）山本 顕、（教育部次長）大嶋 克幸
※教育部各管理職同席
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 議題（1）第三次恵庭市教育大綱の策定について
（2）図書館恵庭分館カードレスＩＣ化事業について
（3）その他
- 6 議事録内容

1. 市長挨拶

教育委員の皆様におかれては、子供たちの教育環境や生涯学習等にご尽力いただいていることに対して、心から感謝申し上げます。

今年度から教育長、副市長が変更となり、新たな形での総合教育会議となるため、今後とも宜しくお願ひしたい。

現在も新型コロナウイルスが収束しない中ではあるが、5月以降のワクチン供給によって多くの方に接種していただきたい。

学校現場において小学校で感染者の発生による学級閉鎖となり、教育現場にも影響が出ているのが大変残念である。今後教育現場や社会情勢、デジタル化など様々な変化に対応できるよう、何よりも子供たちのため、市民のためを考えなければならない。

教育委員会と市長以下をつなぐ大切な会議であるので、引き続き宜しくお願ひしたい。

2. 教育長挨拶

皆様におかれては、日頃より市政及び教育行政にご尽力いただき感謝申し上げます。

学校教育について、一部学級閉鎖となった学校があったが、各学校の努力と地域の心強い支援の下、子どもたちには落ち着いた環境での教育活動が進められている。生涯学習、社会教育において、市民における様々な文化活動が行われており、かしわのもり、図書館をはじめとした生涯学習関連施設を実際に利用し、施設の素晴らしさや先進性から、学校教育、生涯学習ともに恵庭の可能性を強く感じた。

今年度から教育をめぐる新たな取り組みとして昨年度の小学校に引き続き、今年度は中学校で新学習指導要領が全面実施となり、これからの時代を生きる子供たちに社会

を担う資質や能力を育む教育を目指す。また、小学校３年生までのすべての学級で３５名以下の学級編制となる。これらの動きを踏まえた教育を確実に推進すると共に、本日の議題である第三次恵庭市教育大綱に基づき恵庭の教育が、今まで取り込んできた地域コミュニティを基盤とする生涯学習、ふるさと教育の基盤を含む学校教育を引き続き行う。今回の総合教育会議において、様々な視点からのご意見を通して、今後の施策の取り組みに繋げていきたい。

３．議題

（１）第三次恵庭市教育大綱の策定について

昨年度に第二次大綱の見直し後、令和３年度から５年間の第三次大綱案の策定を進め、昨年１２月の会議での協議内容を踏まえ大綱案を一部修正した。

前回会議からの主な修正点は以下のとおり。

〔目標２の基本方針〕

- ・１文にまとめていた「障がい」と「いじめ等」に関する内容について、文章を２つに分け、文言を修正。

【目標５】

- ・「地域で育む子育て環境づくりを進めます」を「地域で子どもを育む環境づくりを進めます」に変更。

〔目標５の基本方針〕

- ・「より良い人間関係を築くため、相手を思いやる心など」の文言を追加。

○大綱案策定までの実施内容

- | | |
|----------------|-------------------|
| ①令和３年１月２９日 | 総務文教常任委員会へ報告 |
| ②令和３年２月２日～３月２日 | パブリックコメント実施（意見なし） |
| ③令和３年４月２７日 | 本会議にて教育大綱策定 |

（市長）

事務局より、第三次恵庭市教育大綱の説明があったが、質疑等はあるか。

（委員一同）

質疑等なし

（市長）

質疑等なしとし、第三次恵庭市教育大綱を承認することとしてよいか。

（委員一同）

異議なし

（２）図書館恵庭分館カードレスＩＣ化事業について

●概要

利用者カード不要で図書の貸出可能により、多くの市民の利用を促す事業。

図書館分館以外の場所に本や雑誌等を設置し、どこでもゆっくり読書を楽しむ環境を整えていく。

●貸出・返却の簡素化

I C 自動貸出機 2 台、I C 自動返却機 1 台を設置。

貸出機及び検索機は、てのひら静脈認証システムと連動しており、カウンターで静脈登録後、手のひらをかざすだけで貸出・予約が可能。

●セキュリティ

建物の外側に I C 化システムセキュリティゲートを 3 基設置。

貸出未処理の持ち出しされた図書の特典を即時に行い、音などで利用者へ知らせることで図書の盗難を防止。

●環境整備

①図書館分館が狭く圧迫感があるとの声から、書架の移動を実施し 7 架の低い書架を設置。

②Wi-Fi 環境やタブレット等を整備し、デジタル資料（雑誌・新聞）や電子図書の閲覧が可能。

③電子雑誌閲覧サービスの導入により、400 種類以上の雑誌の新刊が閲覧可能。

④大型モニタの設置により北海道新聞ほか 2 社の電子版の閲覧可能。また、配置しているタブレットで電子図書館を館内で閲覧可能。

⑤電子図書館は今年度にもまず市内の小中学生を対象に、いつでもどこでも読書ができるよう実施。

●事業費

事業費：工事請負費及び備品購入費 延べ 36,765,960 円

財 源：公益財団法人図書館振興財団助成金 10,000,000 円

子育て基金 7,290,000 円

青少年文化振興基金 19,475,960 円

●現在の運営状況

①開館再開日：3 月 2 日（火）から（2 月は工事、IC タグ添付作業のため休館）

②管理運営者：(株)図書館流通センター

③開館時間：9：30～19：00（休館日は月曜日・毎月最終金曜日）

④蔵書数：約 43,000 冊

⑤利用状況：貸出数 10,467 冊、利用者数 3,043 人

（いずれも 3 月実績、貸出数は例年通り、利用者数は例年の約 1.2 倍）

セルフ貸出に慣れてもらうため、貸出冊数を無制限から 10 冊までに制限。

⑥てのひら認証登録者数：828 人（2 月 13 日～4 月 12 日）

今後更なる市民周知が必要と考えている。

【質疑・意見】

（A 委員）

図書館の新しい機能を活用することが、子ども達への興味のきっかけとなるのでは

ないか。道内で初めての事業ということで、今後広がってほしいと感じた。

(B委員)

図書館内のレイアウトが開放的で、ふらっと立ち寄れる目的が非常に表れていた。カードレス I C 化は難しいイメージがあるが、実際に体験すると説明が丁寧かつ簡単に手続ができ、画期的であった。

(C委員)

一番興味を持ったのが電子図書館で、とりあえず分館だけということだが、今後普及していけば図書館の利用が広がっていくと感じた。

(副市長)

電子図書館の事業を実施して良かったが、今後広げていくには時間を要するが、こういった取組を今後も続けていければと考えている。

(教育長)

電子図書館の取組は、コロナ禍の状況に相まって子ども達が外に出られない間利用してもらうコンセプトであり、子ども達には更に利用してもらいたいと考えている。I C タグについて、市民の皆様にも自慢できる事業であり、将来的には図書館本館でも I C タグを導入できればと考えている。

(市長)

子ども達が総合学習や、あるいは電子図書館を直接来館し、I C 化事業を見てもらうことで登録者が増え、かつ、子ども達も楽しいのではないかと。各学校へ徐々に浸透していければ良いと感じている。しかし、コロナ禍のため人数の制約もあることから、コロナが落ち着いたら、道内で初めての事業のため図書館の授業を組み込めれば良いと考えている。また、図書館本館は大規模改修もあるため、導入は何時になるか不明だが、恵庭市は読書のまちであり多くの市民の方々に本を読んでもらう、図書館を利用してもらう施策のきっかけとなればと考えている。

以上